技術報告

高槻市安満遺跡公園パークセンター 市民とともに育てつづける公園

Creating a park with the participation of residents "Ama site park in Takatsuki City"

北　伸一朗 *1、村井　俊彦 *2、谷口　桃子 *3

1. はじめに

高槻市安満遺跡公園は、都心にある史跡安満遺跡と京都大学附属農場（以下、京大農場）跡地・環境資産を活かし、豊かな市民生活の発展と新たな市民文化醸成の拠点として、高槻市のシンボルとなる公園を市民とともに育てつづけることを理念に作られた公園です。

2019年3月一次エリア開園、2021年3月全面開園しました。国宝級の遺跡が眠る約22ha（甲子園球場5個分）の広大な都市型公園となります（**図-1**）。

2. 建築概要

2.1　立地・周辺環境

安満遺跡公園パークセンターはJR高槻駅と阪急高槻市駅の沿線に挟まれた場所に位置します（**写真-1**）。敷地の西側には、市役所や大学施設、商業施設、集合住宅等の高層建物が建ち並ぶ中心市街地、公園周辺は住宅地が隣接し、さらにその奥に自然豊かな山並みを望むことができる緑豊かな遺跡公園として、生まれ変わりました（**写真-2**）。

図-1　案内図

写真-1　一次開園エリア

表-1　建築概要

所　在　地	大阪府高槻市八丁畷町12-3
建　築　主	高槻市 独立行政法人都市再生機構 西日本支社
用　　途	体験学習施設
設 計 担 当	株式会社INA新建築研究所　西日本支社
施　　工	建築：大鉄工業株式会社 電気：栄興電機工業株式会社 空調・衛生：西川設備工業株式会社
構 造・規 模	S造・平屋
敷 地 面 積	約4.09ha　（一次開園エリア） 仮想敷地設定　11,463.15㎡
延 床 面 積	2,906.58㎡
竣　　工	2018 年11 月
撮　　影	株式会社伸和　他

*1　KITA Shinichiro　　：（株）INA新建築研究所
*2　MURAI Toshihiko　　：（株）INA新建築研究所
*3　TANIGUCHI Momoko：（株）INA新建築研究所

2. 2　計画の概要

■建物コンセプト

高槻市の新しいランドマークとする事を目標に公園整備事業がスタートしました。

コンセプトは「世界一美しいパークセンター」です。

公園に訪れた人々が自然と立ち寄り、広大で緑豊かな公園に相応しい、景観を全て取り込む建物としています。

建物内外に地域産木材や木質系の素材を随所に採用し、壁・床・天井等に「自然のぬくもり」を感じることができる空間づくりとしています。

この安満遺跡公園 パークセンターに立ち寄る全ての人が笑顔でくつろぎ、また様々な活動と出会いの場として、歴史・文化が息づく「人々の活動拠点」となりました。

■公園整備までの経緯

安満遺跡は、京大農場の開設工事で発見されて以来、約90年間、農場がこの地に存在していたことで様々な開発等から遺構面を荒らされることなく、地下の遺構が良好な状態で保存されていました。また、偶然にも弥生時代の居住域に農場建物群が設けられており、時代を超えて土地利用が引き継がれています。

高槻市は、京大農場の跡地とその北側の空間を、歴史資産である「史跡安満遺跡」を活かした緑豊かな公園として整備することになりました。この公園では、「市民とともに育てつづける公園」を目指して、2014年度から市民メンバーが参画した市民活動プロジェクトを立ち上げ、2017年4月からは市民メンバーで組織された「安満人倶楽部」が発足されました。

安満人倶楽部の活動として、歴史グループでは弥生時代に作られていた古代米を当時の栽培方法で栽培し、収穫し食べることで、歴史・食育を主なテーマに様々な活動を行っています。それぞれのグループがそのテーマに沿った活動を行い、時にはコラボをしながら、市民活動をされています。そのグループの活動拠点がパークセンターです。パークセンターではその他に子どもの遊び施設やインフォメーション機能に加え、防災拠点・避難施設としての役割も担っています。

このパークセンターは、大人も子どもも、みんなが一緒になって「遊び・学び・考え・作る」ことを目的として作られた施設です。安満遺跡公園パークセンターを一言で表現する場合、「大きな遊び基地」が相応しい言葉となります。

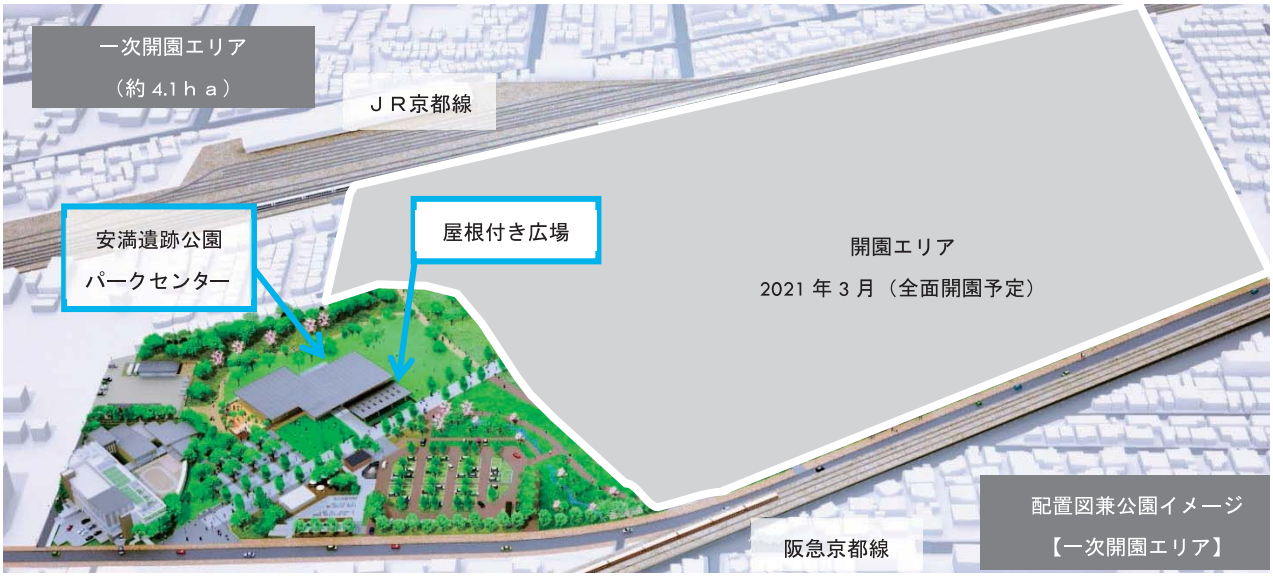
表-2　市民のボランティア団体一覧

市民のボランティア団体　種類と活動
歴史・防災・自然・遊び・健康・広報・ペット・ あまマルシェ・あまプレーパークの会など

写真-2　パークセンターの外観

2. 3　公園全体の計画

全面開園までの経過をイメージパースにて図示します。



【パース1】一次開園エリアイメージ（西エリアの区域）

【パース2】全面開園イメージ（東エリアの区域）

写真-3　メインエントランス（西エリア）

写真-4　パークセンターを中心とした公園

2. 4　パークセンターのプランと活動概要

市民に愛されつづける「安満遺跡公園とパークセンター」へ

本公園では、つくり込まず、時代やニーズに合わせて変化させていく“ハーフメイド”エリアを設定し、計画段階から将来にわたって、市民とともに育てていく、成長する公園づくりに取り組む。

■目標像

○歴史資産の保全・活用
○地域防災力創造の場
○みどり豊かな景観・環境の創出
○成熟化社会に向けた公園
○高槻版市民が育てる公園づくり

写真-5　公園全体イメージ

施設のゾーニングと活動を図やイメージパースにて示します。

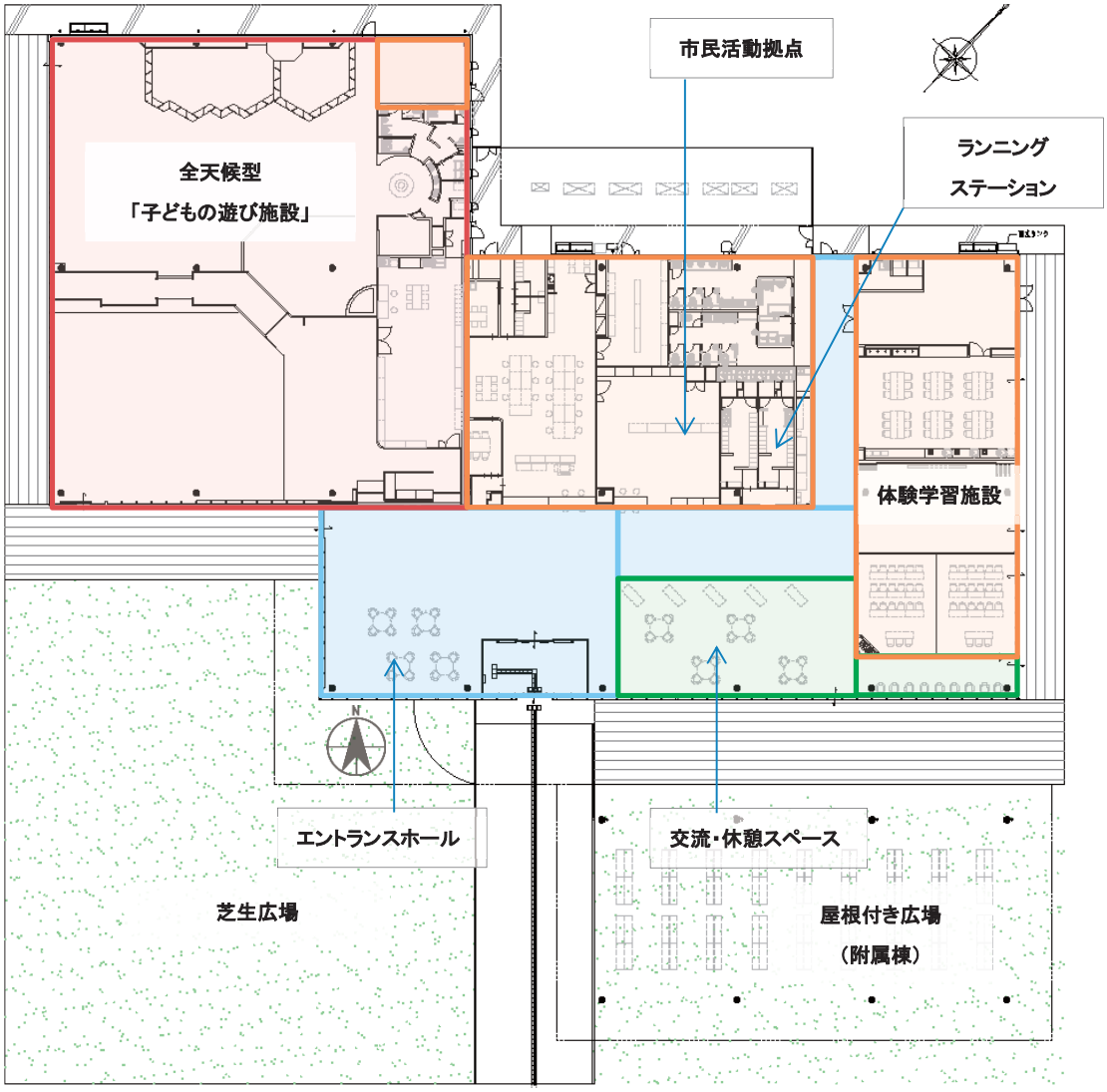


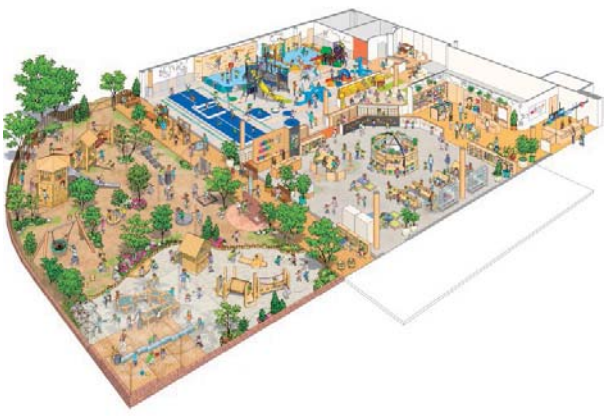
図-2　1階平面図（ゾーニング図）

パークセンター施設内活動イメージ

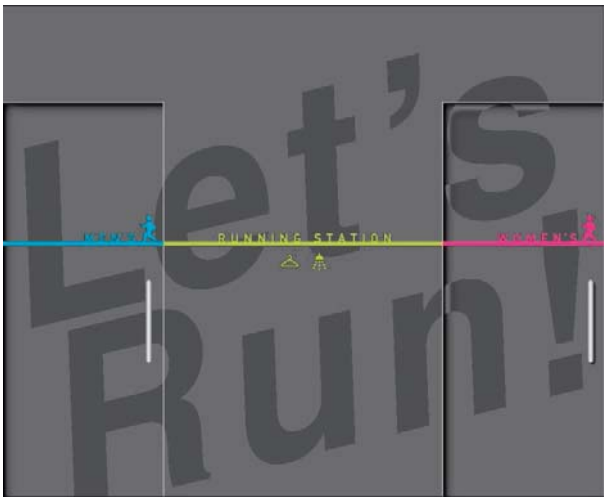
【パース3】エントランスホール、交流・休憩スペース

【パース4】体験学習室（工作・調理室）

【パース5】体験学習室（多目的スタジオ）



【パース6】子どもの遊び施設※高槻市HPより



【イメージ】ランニングステーション

3. 環境配慮について

現在まで良好に保存されてきた安満遺跡をこれからも将来に渡り守り続け、市民に愛されつづける公園を目標につくり込まず、時代やニーズに合わせて変化させていく、“ハーフメイド”エリアを設定し、市民とともに育てていく、成長する公園づくりに取り組みました（**写真-5**）。

3.1 環境保全と建物への配慮

■歴史遺産の保存【環境配慮・遺跡保存】

・建設地は弥生時代の環濠集落跡等が国史跡安満遺跡として国から指定されています。
（約12.8ha，平成5年，23年指定）

・公園全体に盛土を行う事で歴史遺産の保護・保存を図りました（**写真-6**）。
遺構面への配慮として建物の床レベルを高く設定し、基礎・配管ピットを遺構面に影響が無い高さに設定しました（**図-3**）。

写真-6　出土した農具

■景観への配慮・景観に溶け込む工夫【景観配慮】

・公園エントランスからは綺麗な山並みが望め、周囲に山並みを邪魔する建物はありません。雁行した建物形状と屋根勾配は、山並みと周囲の景観を意識したデザインとしました（**写真-7**）。

・建物3面の大型カーテンウォールが景観を映し込む鏡の役割を果たし、広大な緑・時間や季節の移り変わりを雄大に感じられる空間としました（**写真-10**）。

■木材の有効活用【環境保護・地域貢献】

・公園の施設らしく「木のあたたかみを感じる空間」としました。カーテンウォールのマリオン・天井ルーバーは全て天然木で構成し、ルーバーの木は間伐材等を採用し環境保護に貢献しています（**写真-9・10**）。

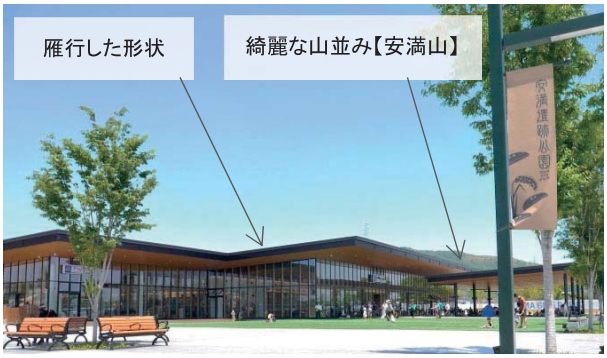


写真-7　山並みを意識したスカイライン

写真-8　室内側のマリオンにも天然木を使用

写真-9　木のあたたかみを感じるエントランスホール

写真-10　カーテンウォール（3面）に公園の景色が映りこむ

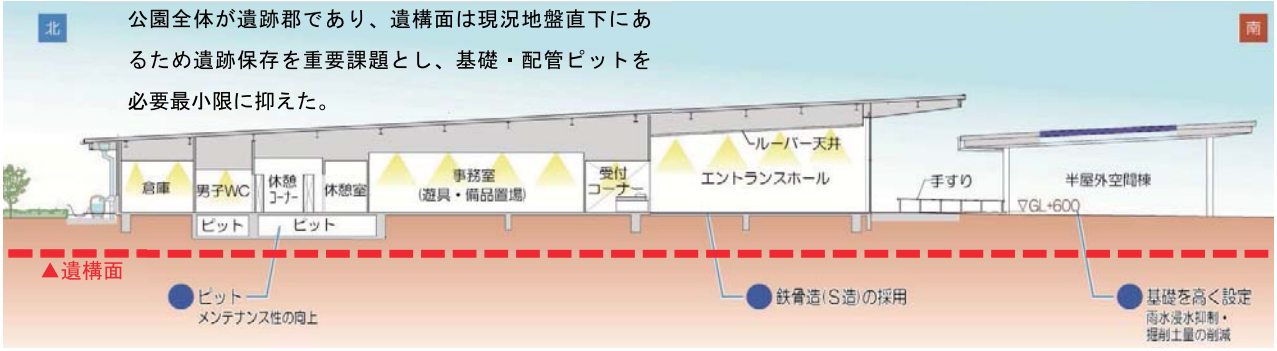


図-3　遺跡への配慮・断面イメージ

■建物スケールへのこだわり

【大庇・地域産木ルーバー】

・人間工学に基づき人がダイナミックと感じる高さや大きさ等の検討を行い、庇の出を最大5.5m、エントランスホールの天井高約5.5m、空間面積 約500㎡としました。また屋根勾配と室内のルーバー勾配を統一させ、内外の一体感を創出させました（**図-4**）。

■構造美へのこだわり

【景観配慮-外観・構造デザイン】

・パークセンター棟（本体棟）と屋根付き広場（附属棟）は統一感を出すため、外部から見える柱スパンを全て同グリッドとし、カーテンウォールのガラス張りにより視線が抜け、奥行き感のある建物形態としています。

・屋根・軒裏の仕上げや形状・柱の色や大きさ・人工芝等の要素・リズムとバランスを統一し、構造的に柱サイズ等を統一化し、調和を図りました（**図-5**）。

■照明へのこだわり

【LED･調光センサーの導入】

・公園の照明計画と連携させ、色温度は外部から見える事務所もすべて3000Ｋで統一しました。

・建物全体に統一感を出し、ぬくもり・華やかさを演出しています。

・配光計画としては、壁・天井・庇面を発光させる事で建物全体が浮かび上がるような計画としました。

・公園の中に位置する立地環境も影響し、建物周囲に影響する光が一切なく、暗闇にきれいに輝く宝石箱のような、とても幻想的なファサードと照明計画が可能となりました（**写真-11**）。

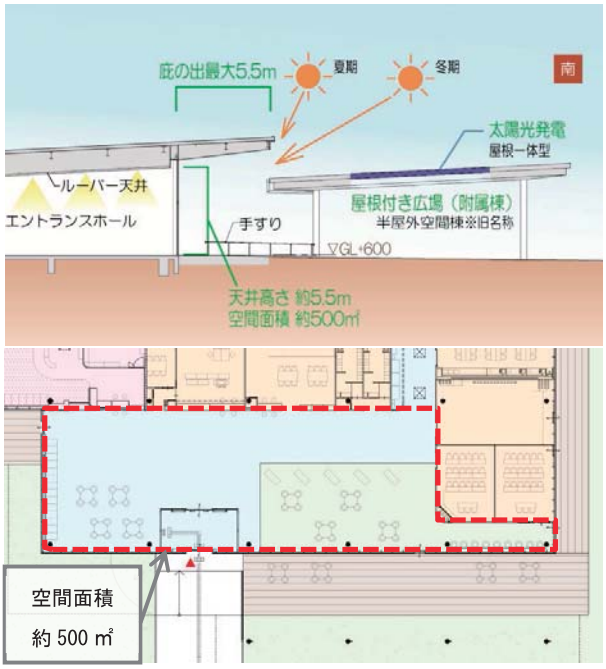


図-4　庇・エントランスホール空間イメージ図

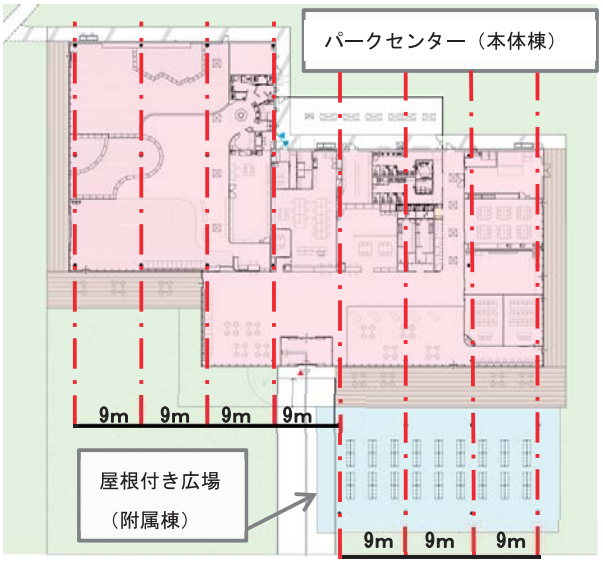


図-5　建物スパン割イメージ図

写真-11　パークセンターの外観（夜景）

■意匠と設備の融合【一体感の演出】

・全天候型「子どもの遊び施設」の天井は、意匠的に格子天井を構成しその中に設備ダクトを配置し、特徴ある空間づくりを行いました（**写真-12・13、図-6**）。

4. 環境性能評価に関する取組み

環境性能の評価に関する取り組みとして、下記の内容を行いました（**図-7**）。

【室内環境】

・全面複層ガラス、西・南面は、高遮熱断熱ガラス（Low－E ガラス）を採用しました。

【ユニバーサル計画】

・用途が異なる各施設との連携や動線に配慮し、単純で位置関係が分かりやすい計画としました。

・地域交流を促す展示コーナー、交流・休憩スペースや市民ランナー用のランニングステーションを設置しました。

【外部環境】

・建物北側に据え置き型の雨水貯留タンクを設置し、雨水を有効活用します（緑地の散水に利用）。

・地上部（公園）の緑化を積極的に行いました。

5. 災害対策

本公園の防災機能は、下記の4点を計画しています。

□広域避難地としての役割

・避難圏域の住民が避難できる避難スペースを確保。

□防災拠点としての役割

・市内の活動場所へのアクセスなどを考慮してボランティア拠点を配置。

□応急仮設住宅建設地としての役割

・有事の際には応急仮設住宅専用地として活用。

□オープンスペースを臨機応変に活用

・広大なスペースがあるため物資の集積や災害瓦礫の集積所等、臨機応変に活用できる場所とする。

写真-12　格子天井イメージ1

写真-13　格子天井イメージ2

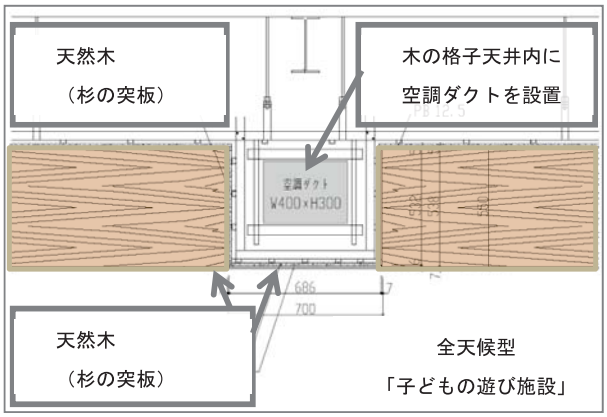


図-6　格子天井断面イメージ図

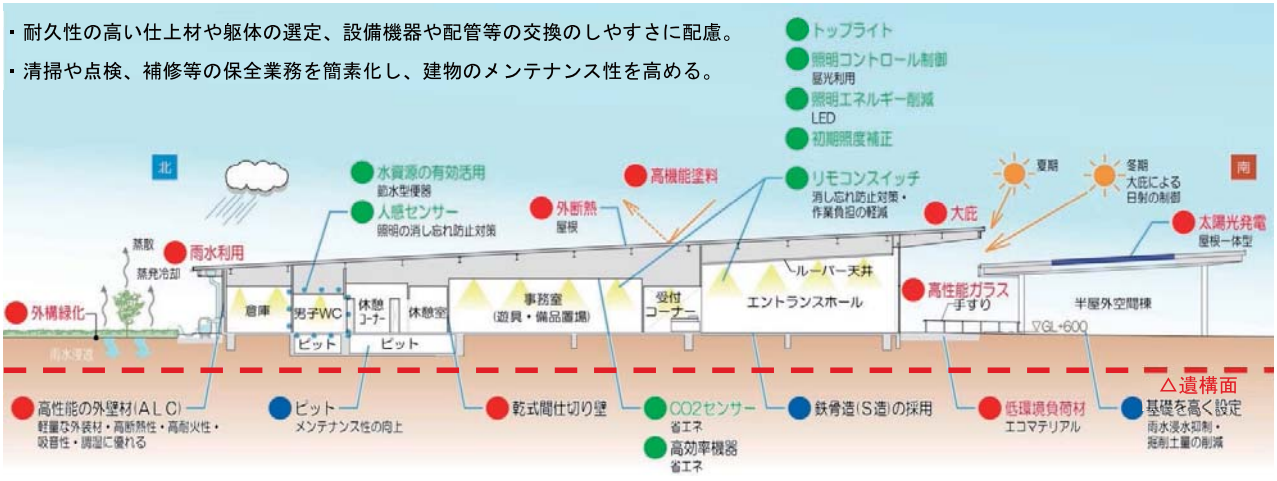


図-7　環境配慮イメージ図

6. 東エリアの建物について

2021年3月末に全面開園をした、東エリアの建物について写真を掲載します。

写真-14　屋根付き広場棟【東エリア】

写真-15　屋根付き広場棟【東エリア】

写真-16　トイレ棟（東）①　【東エリア】

写真-17　トイレ棟（東）②　【東エリア】

写真-18　公園全体・空撮1

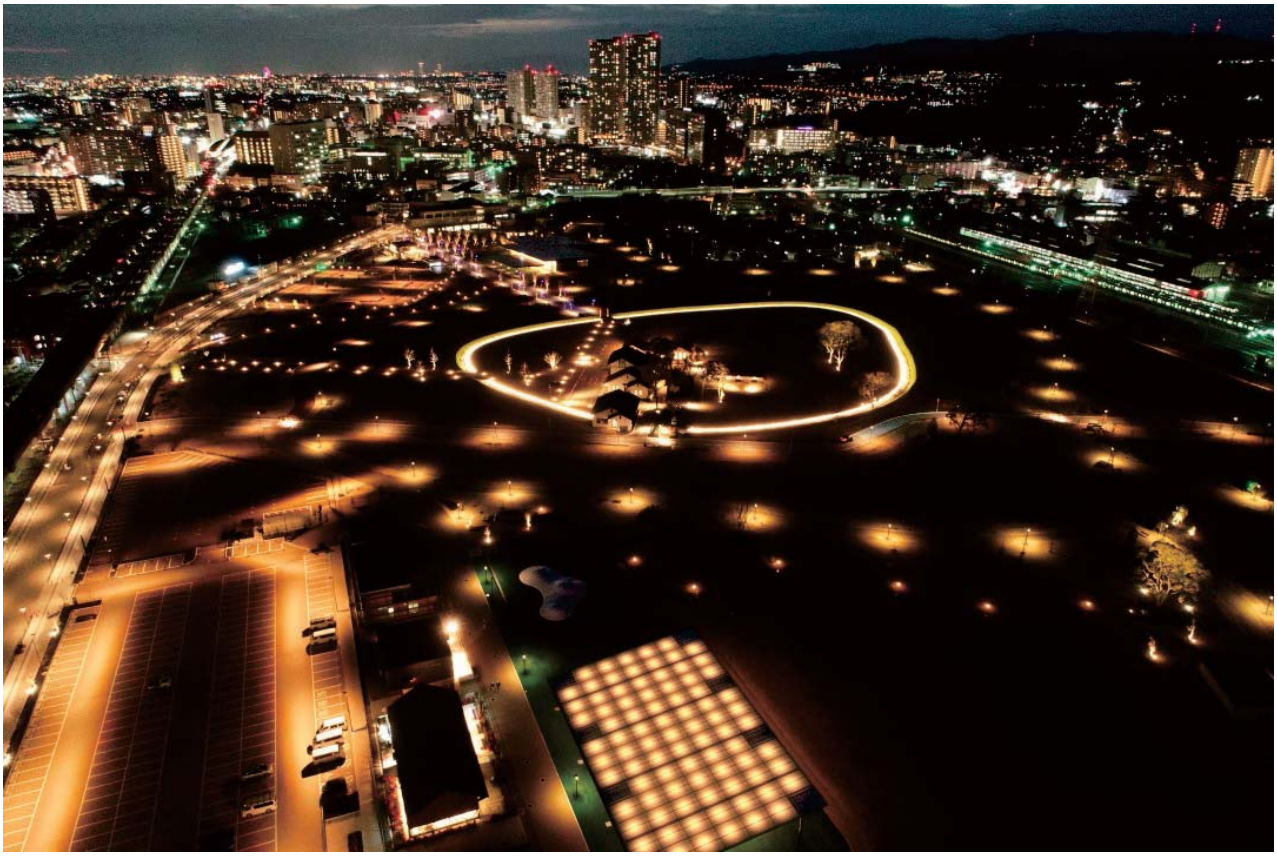


写真-19　公園全体・空撮2

7. まとめ

安満遺跡公園は、約2500年前（弥生時代）の貴重な遺跡を後世まで保護保全し、継承を目的に遺跡公園として整備する事となりました。

ただの遺跡公園とするのではなく、時代やニーズにあわせて変化し成長する公園・高槻のシンボルとなる公園とする為に「市民とともに育てつづける」をコンセプトに公園で活動したい市民メンバーを募集し、市民参加型のハーフメイド公園として計画されました。

パークセンターは公園の中心施設であり、活動拠点の場・防災拠点の場・憩いの場としてその役割を担います。

日本のはじまり、高槻にふさわしい安満遺跡公園の贅沢な緑空間は、まさに高槻市のセントラルパークであり、シンボルとなりました。これからも、時代と共に成長しつづけていく安満遺跡公園の未来が楽しみです。

【参考文献】

1）月刊建築ジャーナル西日本版：こども施設特集，安満遺跡公園パークセンター，No.1297，p.56-57，2019.12月

2）その他：高槻市発行：HP・パンフレット等

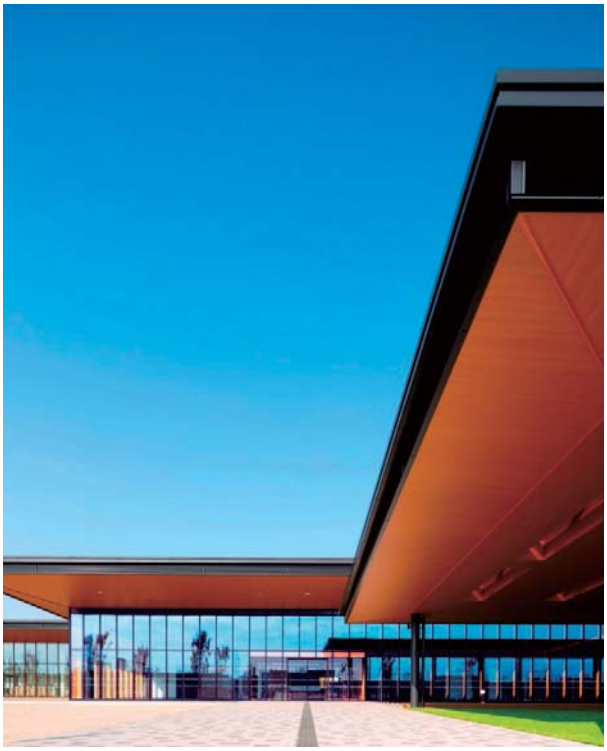


写真-20　パークセンター（アプローチより）

写真-21　全天候型「子どもの遊び施設」屋外

写真-22　全天候型「子どもの遊び施設」屋内

写真-23　エントランスホール